

農業

令和4年12月号
会誌 No. 1697



目次

総裁秋篠宮皇嗣殿下

山梨県の農事功績者表彰受章農家をご視察……………吉田 岳志 3

巻頭言

環境保全型農業を実践してみても……………栗田幸太郎 6

論壇

家畜のアニマルウェルフェアについて考える……………広岡 博之 7

食用タンパク質研究会

第10回食用タンパク質研究会……………和田 有史 9

消費者の新食品の受容とリスク認識

質疑応答・討論…………… 19

農事功績者座談会

アイガモ農法による安心・安全なお米を農家から……………井関 義次 26

大阪府関係者のコメント……………溝淵 直樹 34

意見交換…………… 35

食を楽しむ

日本食であるパフェは素晴らしい……………ラウラ・コピロウ 40

研究の最前線

田んぼダム器具の機能評価と現地取り組みの

最前線……………皆川 裕樹, 北川 巖 41

農業・農村の現場から

島根県オリジナル品種を核としたアジサイ産地の育成……………朝倉 祥司 51

—仲間と築くアジサイブランド—

世界の農業は今

欧州での食品表示とエシカルな消費に対応する

環境表示の動向……………後藤 一寿 56

私の経営と志

福岡県鞍手町で野菜・米の複合経営……………貞末 雄介 62
—兼業農家から専業農家へ—

農家の気持ち

100年続く酪農を目指して……………青沼 光 64

統計情報

2021（令和3）年農業経営体の経営収支…………… 65

農政情報

…………… 66

令和4年度農業技術功労者表彰…………… 66

令和4年度（第61回）農林水産祭天皇杯等受賞者…………… 67

第10回（通算72回）農業普及活動高度化全国研究大会における
事例発表受賞者…………… 68

大日本農会だより…………… 69

『農業』年間総目次…………… 70

編集部から…………… 74

会誌「農業」に関するアンケート

表紙写真説明

愛媛果試第28号の枝つり作業（愛媛県松山市）

枝つり作業は、果実肥大に伴う枝折れ防止と、果実に太陽光を当て品質向上を図る等の目的で行っています。

愛媛果試第28号（「紅まどんな」）は、愛媛県のオリジナルカンキツ品種（「南香」×「天草」）で、皮が薄く、とろけるような食感が特徴です。「紅まどんな」は、JA全農の登録商標で、一定の品質基準および外観基準をクリアしたもののみが「紅まどんな」として出荷されています。「紅まどんな」は、愛媛県の「愛あるブランド産品」に認定されており、糖度が高く酸抜けも早いことに加え、大玉で紅の濃い美しい外観から、年末の贈答品として人気が高まっています。

愛媛県における愛媛果試第28号の生産量（2021年、JA全農えひめ取扱量）は、約4,385 tで、そのうちJAえひめ中央が約3,069 tと約7割を占めています。果皮が薄くてデリケートなため、果実に雨が当たらないよう施設栽培や袋掛けをして大切に栽培されます。

（写真および文：愛媛県中予地方局農業振興課地域農業育成室 吉田 孝）